

北西部庭園

近代の庭「公園的要素」をもった家族で楽しむ庭

主屋北西側にあたるこの地区には、運動広場、張芝のテニスコート、滑り台などが設けられており公園的要素を持った「家族で楽しむ庭園」という特徴を持つ。灯籠、大型の景石、多重塔などが置かれた平庭形式の庭園である。



あすまや
四阿跡へと続く飛び石



広場の景観を整える
大型五重塔(高さ4.8m)
[北西部庭園]

主庭園

鳥海山遠景と神宮寺嶽が借景の池泉廻遊式庭園

池田氏庭園の象徴、国内最大級の大型雪見灯籠を中央に配し、大きく緩やかな流れを持つ大池泉を手前に観る。中島が遠近感を高めている。丸平型の川石が使われた飛び石が、優しい曲線を描き打たれている。流れに架かる石橋、沢飛び石を越え大型の景石が置かれた池の周囲を廻遊する。大地主の庭にふさわしい、大きく穏やかで悠々とした主庭園である。



石橋と水際を飾る州浜



旧主屋

皇族も訪れた東北三大地主の大邸宅

正門からアプローチを130m程進んだ先に、大邸宅が建てられていた。部屋数は30を越えると云われる。明治29(1896)年の六郷大地震で倒壊した以前の主屋を再建したものである。大正9(1920)年6月に「閑院宮」様が立ち寄り、同10月には「梨本宮」様が陸軍演習本営として五日間御滞留された。また、大正13(1924)年には佐竹侯爵家族も来泊した。残念ながら、昭和27(1952)年2月に火災により焼失。床下全面に敷かれていた敷石が残っており、往時の規模と暮らしぶりを偲ぶことができる。

五つの土蔵

現存する米蔵・味噌蔵と三棟の内蔵

米蔵は明治20年代の建築で6000俵を越える米の取蔵力を誇る。昭和初期まで多くの小作米が取蔵された。第二次大戦後の一時期、農協倉庫としても利用された。味噌蔵は大正4年建築。旧主屋と棟続きで内蔵が三棟あり、明治期から大正初期の建築である。



三棟の内蔵
(手前から横蔵・中蔵・西蔵)



味噌蔵(左)と米蔵(右)

北東部庭園

奥羽の山並みを借景とした奥座敷の庭

奥座敷の沓脱石から飛び石が打たれ、沢飛び石で小川を越える。流水式の池泉水源には3km上流から木製水道管で引かれた飲料用湧水の余剰水が利用された。主庭園に比較し小規模ながら池泉廻遊式庭園として優れた意匠が施されている。



黄シヨウブと雪見灯籠

冬季農閑期の雇用対策公共事業として実施された水道施設工事。高梨小学校にも供給された。(大正初期施工)

正門



総檜造りの薬医門

広大な敷地への出入りにふさわしい、威風堂々とした重厚な正門。冠木上には家紋である亀甲桔梗の彫り物、柱には桔梗の釘隠しなど精巧な細工も見事である。彫刻は東北の左甚五郎と呼ばれる円満蔵の作と言われている。



堀と土塁

六角形の敷地を囲み延長約800mの堀と土塁が巡る。往時には小舟を浮かべて遊んでいたと伝わる。堀の石組も六角形の亀甲積である。



【敷地面積】

●約42,000㎡ (12,700坪)
六角形の地割りは、家紋である亀甲桔梗を意識したと云われる。

講堂

邸内に講堂と称される武道館を建て、文武両道、地域の青少年教育に貢献した。柔道家の嘉納治五郎らを招き指導にあたらせた。



(大正時代～昭和初期)

畜舎跡

敷地の南側には、厩舎、ガラス張りの温室、家畜舎、果樹園、蔬菜園が設けられた。



厩舎・家畜舎
(明治後期～大正時代)

池田家邸宅之図

広大な敷地を持つ池田家邸内の様子を記した図面「池田家邸宅之図」が池田家に残されている。制作年月日が未記載であるが、主屋や洋館の配置から大正時代末期から昭和初期の制作と考えられ、往時の様子を知る上で貴重な史料である。建物の多くが失われたが、正門と五棟の蔵、洋館が現存しており貴重な歴史的建築物である。

亀甲形の広大な敷地は明治39(1906)年の耕地整理を契機に明治末期にかけて造成されたと考えられており、庭園についても屋敷地確定後の明治末期から大正時代初期にかけて築庭されたと考えられる。



いけだていたくのみず
池田家邸宅之図(軸装)